

A silhouette of a person with short hair, wearing a dark jacket, is shown from the back, pointing their right index finger towards a bright star in a vast, starry night sky. The Milky Way galaxy is visible as a soft, glowing band of light across the lower right portion of the sky. The overall color palette is dark blue and black, with white stars and light from the galaxy.

I I S E

ソートリーダーシップ活動 ファクトブック

September 2025 v1

January 2026 v2



THOUGHT LEADERSHIP INITIATIVE

ソートリーダーシップ活動

社会課題を解決へと導く新しい考え方を
構想して世の中に提示し、
ステークホルダーとの共感と共創を通じて、
顧客や市場など新たな価値を創造する
ソート（Thought）起点の社会実装活動。

自社の強み・テクノロジーを活かし、
ルールやエコシステムなどを形成しながら、
未来の構想から社会への実装までを実行します。

予測できない時代に、共に未来をつくる

「あなたは、10年後の社会を想像できますか？」

気候変動、デジタル化、人口動態の変化——社会は複雑で予測しづらい課題に直面しています。

こうした課題は、今の業務環境だけでは解決できません。

顧客のニーズや市場は絶えず変化しています。

企業はその変化に敏感に、未来を見越した新しいアイデアや解決策を提供する必要があります。

NECが社会価値を創り続けるために必要なのは、

多様な視点とともに、新しい仕組みや価値を共創する力です。

私たちは、どんな未来を描き、誰と手を取り合うべきなのか。

その答えを、一人ひとりが考え、行動に変えていく時です。

Contents

- 05 ソートリーダーシップ活動の必要性
 - ソートリーダーシップ活動の定義
 - NECグループとソートリーダーシップ活動
 - ビジネスカルチャーの1つとしてのソートリーダーシップ活動
- 08 ソートリーダーシップ活動の事例
 - 実施例「適応ファイナンス」
 - ソートリーダーシップ活動の実施フロー
- 13 IISE (国際社会経済研究所) とは
- 18 IISEのソートリーダーシップ活動テーマと所員紹介
- 26 ソートリーダーシップ活動を象徴するビジュアル

ソートリーダーシップ活動の必要性

ソートリーダーシップの変遷

そもそも、「ソートリーダーシップ」とは何なのか。じつを言うと、社会的にはその定義はまだ固まっていないようです。

「インフルエンサーマーケティング」を指す言葉として、BtoCの場面で使われることが多かった2000年代から、2010年代にはBtoBを対象に行われる「デジタルマーケティング」にも広がりました。そして2020年代。デジタルトランスフォーメーションが叫ばれるようになり、企業は社会課題の解決とビジネスを同時に考えていかなければならない時代になっています。ソートリーダーシップはBtoS（Society）をテーマにし、経営戦略として語られるようになりました。

BtoCマーケティングから始まったソートリーダーシップは、いまや社会的意義と向き合う概念にまで拡張してきているのです。

ソートリーダー・ソートリーダーシップという言葉が世界で使われ始め、徐々に日本でも浸透しつつあります。

IISEでは「ソートリーダーシップ活動（TL活動）」と称して、このソート起点の社会実装活動を牽引しています。

BtoC

インフルエンサー
マーケティング

インフルエンサーが
SNSなどを通してプロダクトを紹介

BtoB

デジタル
マーケティング

企業がホワイトペーパーを通して
自社のソートをWEBで発信

BtoS
(Business to Society)

経営戦略

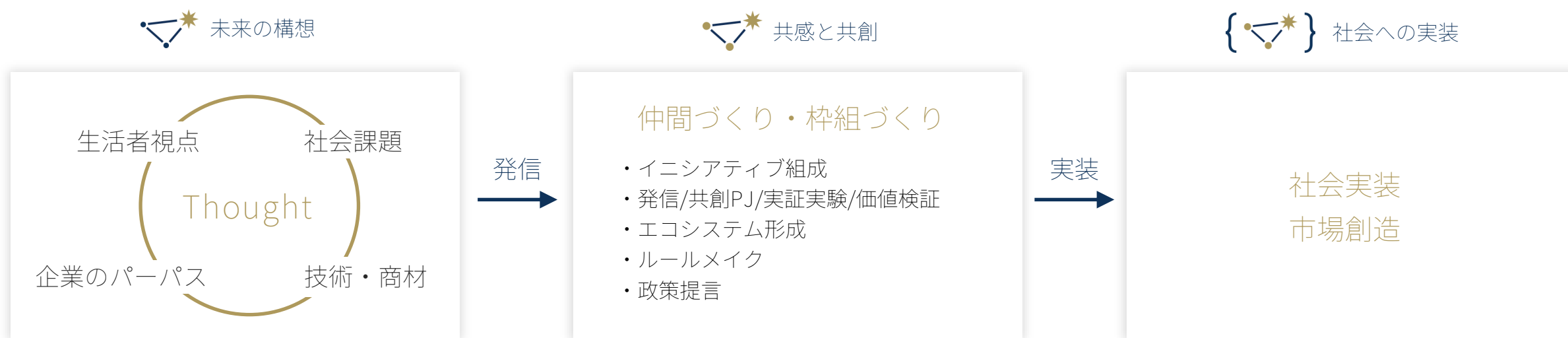
社会的意義と向き合う
『ソートリーダーシップ活動』を
経営戦略の規模で展開

※詳しくは[note](#)で詳細をご覧ください。

IISEが考えるソートリーダーシップ活動の定義

社会課題を解決へと導く新しい考え方(ソート/Thought)を構想して世の中に提示し、ステークホルダーとの共感と共創を通じて、顧客や市場など新たな価値を創造するソート(Thought) 起点の社会実装活動。

自社の強み・テクノロジーを活かし、ルールやエコシステムなどを形成しながら、未来の構想から社会への実装までを実行する。



ソートリーダーシップ活動の事例

ソートリーダーシップ活動 事例：NECデジタル適応ファイナンス

未来の構想（ソート/Thought）

すべての人・地域・国にとって 適応策が実装された レジリエントな社会を実現

自然災害の激甚化をはじめ気候変動の影響が顕在化している。しかし、温室効果ガス抑制に代表される「緩和」と比較して気候変動の影響を低減する「適応」は十分に進んでいない。

NECはデジタル技術を応用して、適応策の減災価値や環境効果を予測分析し、定量的にわかりやすく可視化することにより、投資家や保険業界、各企業、政府の適応への取り組みを後押しする。

地域の自然資本を考慮した誰一人取り残さない適応策の主流化により、レジリエントな社会と人々のウェルビーイングを実現する。

実施例「NECデジタル適応ファイナンス」

自然災害の激甚化をはじめ気候変動の影響が顕在化している。しかし、温室効果ガス抑制に代表される「緩和」と比較して気候変動の影響を低減する「適応」は十分に進んでいない。NECはデジタル技術を活用して、適応策の減災価値や環境効果を予測分析し、定量的にわかりやすく可視化することにより、投資家や保険業界、各企業、政府の適応への取り組みを後押しする。



実施例「NECデジタル適応ファイナンス」参考

自然災害の激甚化をはじめ気候変動の影響が顕在化している。しかし、温室効果ガス抑制に代表される「緩和」と比較して気候変動の影響を低減する「適応」は十分に進んでいない。NECはデジタル技術を活用して、適応策の減災価値や環境効果を予測分析し、定量的にわかりやすく可視化することにより、投資家や保険業界、各企業、政府の適応への取り組みを後押しする。



未来の構想



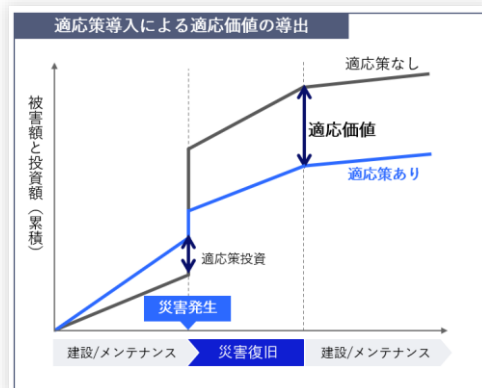
共感と共創



社会への実装

テーマ
NECデジタル
適応ファイナンス

社会課題起点で未来の市場構想



アカデミアをはじめとする
ステークホルダーとの対話を通じ、
適応価値の可視化による新市場を構想

国際会議等でのビジョン発信



適応価値への資金動員に向けて、
デジタル技術による貢献可能性を発信
上：COP28での森田CEOキーノート
下：COP29での西原CTO講演

「適応ファイナンスコンソーシアム」 本格始動



一般社団法人適応ファイナンスコンソーシアム
(代表理事：野口聡一IISE理事)が2025年 本格始動。
事例づくりや提言活動を通じ適応ファイナンスの市場拡大へ
適応ファイナンスコンソーシアム HP：<https://jcaf.org/>

TL活動シミュレーションシート

TL活動を効果的に進めるために、現状分析と改善施策を事前に検討するためのツールです。
実際の業務データや想定シナリオをもとに、活動の効果をシミュレーションしてみましょう。

 未来の構想

 共感と共創

 社会への実装

テーマ

どんな社会課題・生活者メリットか	ステークホルダーは	目指す新たな市場は
目指す未来の社会像は	パートナー・仲間は(プレイヤー)	自社のテクノロジーは(事業のゴール)
必要なソリューションは	共創をリードする仕組みは	定量・定性的な(ソートの)ゴールは (なにをもって社会実装か?)

IISE (国際社会経済研究所) とは

沿革・事業概要

NECグループの独立シンクタンク。

- ・2000年 設立：中立的な立場から、今後の情報社会の在り方をグローバルに発信することが目的
- ・2022年 ソートリーダーシップ活動を牽引する存在となるべく体制を強化。

HP : <https://www.i-ise.com/jp/>

Facebook : <https://www.facebook.com/nec.IISE>

LinkedIn : https://www.linkedin.com/company/nec_iise/

X : https://x.com/NECIISE_jp_pr

note : https://note.com/nec_iise/

事業

ソートリーダーシップ活動 —— 様々な関係機関や有識者等との知的交流を通じて「知の集積」を図り、ありたい「未来の社会像」を提案・発信

ベースリサーチ —— デジタル化が進展する社会の姿や課題の探索

経済安全保障 —— 市場競争環境と地政学的情勢に関する情報収集、リスク分析

体制



代表取締役社長
西原 基夫



理事長
藤沢 久美



理事兼CTO
(Chief Technical Officer)
野口 聡一



理事
谷川 浩也

非常勤理事

八木 毅 (元 駐ドイツ大使)

山崎 重孝 (元 内閣府事務次官)

大島 一博 (元 厚生労働事務次官)

貝塚 正彰 (元 日本銀行理事)

受川 裕 (NEC Corporate Executive)

Mission

世界知で、未来を照らす

Brand Story

人類は古代より、夜空に瞬く星の連なりに星座を見出し、物語を紡いできました。
世界各地で生み出された星座は時に、そこに生きる人々が種を蒔き、豊かな実りを得るための
道標の役割を果たし、地域や文明を超えて、現代へつながる人類の発展を導いてきました。

今日、世界は新たな文明への扉の前で、地球規模の課題の発見と解決を求められています。
わたしたちIISEは、NECグループのシンクタンクとして
世界の持続的な発展と、誰一人取り残されない人類の存続とを見据え、
未来の社会像を描き、共に歩む仲間を募り、道筋を示します。

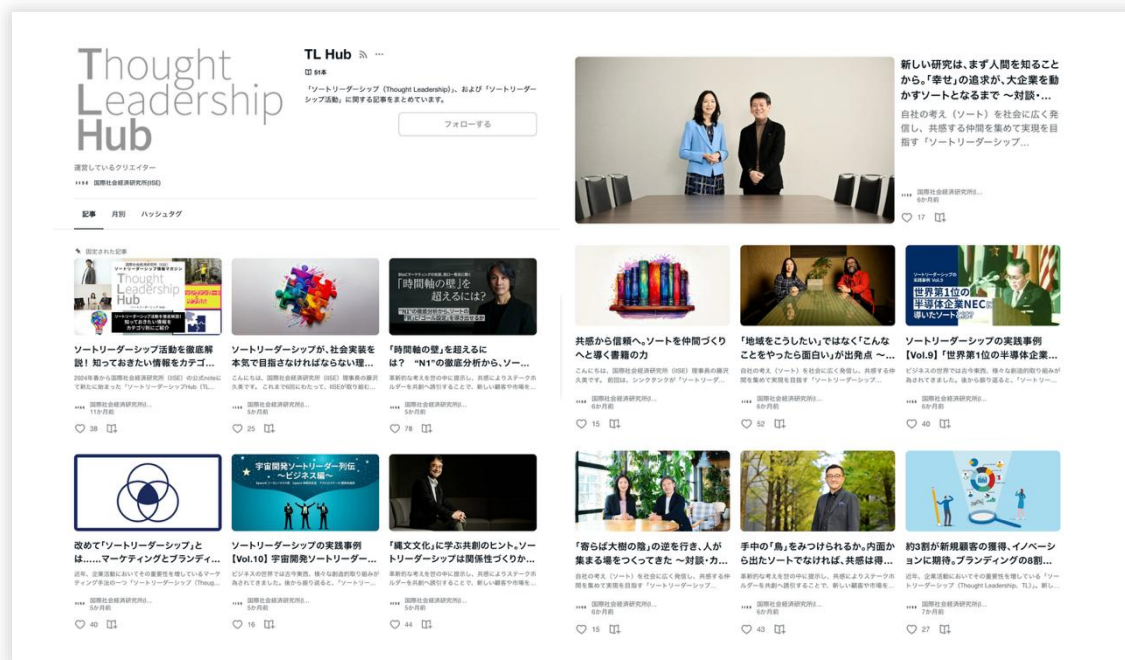
IISEは、そのネットワークを通じて世界中から知を集積し、そこに集う専門家たちと共に
星の連なりを見つめ直すことで新たな星座の物語を紡ぎ、社会に語りかけます。
新たな星座とは、新たな社会像・新たな市場・新たな価値であり、
誰もが持っている未来の種を、課題解決につながる事業として芽吹かせ育むための道標となります。

IISEは、未来の種を植える人々の道標となります。



理解を深めるためのコンテンツ

note「TL Hub」



https://note.com/nec_iise/m/mb285c6fd93a1

noteの公開に積極的に取り組んでいます。とくにマガジン「TL Hub」では多業界のソートリーダーたちとのインタビュー記事やTL活動で活用できる実践的なヒントなど、TL活動をより深く理解できる記事を多数公開しています。

IISE FORUM



https://note.com/nec_iise/n/n3f0e5a131362?magazine_key=m7c12928ff61a
(IISE FORUM2025)

毎年開催のソートリーダーシップ活動に関するビジネスフォーラム

理解を深めるためのコンテンツ

WEBサイト



IISEの詳しい紹介、直近の活動の更新

<https://www.i-ise.com/jp/index.html>

IISE Webinar



様々なセクターの皆様とともに知見を共有し、
未来の競争に向けたつながりの場

https://note.com/nec_iise/m/m7c12928ff61a

(IISE note イベント)

IISE Thought Leadership Initiative Fact Book

ホワイトペーパー・書籍



ソートリーダーシップ活動の一環として発刊

<https://www.i-ise.com/jp/information/press/2025/20250604.html>

IISEのソートリーダーシップ活動テーマ

IISEでは現在、以下のテーマを主なものとして掲げ、ソートづくりから社会実装の支援をしています。

行政DX

Mobility

web3

デジタル
ファイナンス

SRM2.0

環境

宇宙

IISEの所員紹介



藤沢 久美

理事長

ソートリーダーシップ活動

経済・金融

社会システム・政策提言

経歴

国内外の投資運用会社勤務を経て、95年に日本初の投資信託評価会社を起業。同社を世界的格付け会社スタンダード＆プアーズに売却後、シンクタンク・ソフィアバンクの設立に参画し、2013年から22年3月まで代表。2022年4月よりNECグループの独立シンクタンク国際社会経済研究所（IISE）の理事長として、テクノロジーの力で社会課題の解決を実現する事業戦略や市場戦略に責任を持つソートリーダーシップ活動に尽力。また、複数の上場企業の社外取締役を兼務。

ライフワークである様々な分野の社長との対談は1000社を超える。異業種・異分野のリーダーをつなぎ、様々な提言と社会変革を仕掛けている。

主な研究・論文・著書

- ・「最高のリーダーは何もしない」（ダイヤモンド社）
- ・「投資信託主義 時間と資産の正しい法則」（角川書店）
- ・「美人の財布 幸せをつかむマネー術」（ソフトバンククリエイティブ）

他にも、『子どもに聞かせる「お金」の話』『母とはじめる投資信託』など、金融・マネー・投資関連の著作が多数

TL活動との接点

ソートリーダーシップ活動の牽引を主導



野口 聡一

理事兼CTO
(Chief Technical Officer)

宇宙

環境

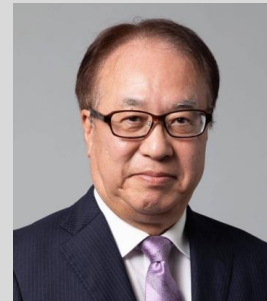
経済安全保障

経歴

航空宇宙分野の研究・技術者としてのキャリアを経て、1996年に宇宙飛行士候補として選抜され、2005年にスペースシャトル再開ミッションである「STS-114」に搭乗。日本人として初めて船外活動を実施し、その後もソユーズ、クルードラゴンでの飛行を含め、異なる宇宙船による三度の宇宙ミッションに参加。長期滞在を通じて有人宇宙技術の発展に貢献し、世界的な評価を得る。帰還後は大学・研究機関にて教育・研究活動に携わり、宇宙で培った知見を社会に還元する取り組みに注力。また、国内外の企業・自治体・政府機関に対して技術・安全・教育などの分野で助言を行い、宇宙の視点を活かした社会価値創造に取り組んでいる。2022年7月よりIISEの理事として宇宙技術・宇宙視点を社会課題・経済安全保障・デジタル社会の観点から統合していく役割を担う。宇宙という極限環境から得た示唆と、分野横断のネットワークを活かし、さまざまな提言と社会変革を推進している。

主な研究・論文・著書

- ・「どう生きるか つらかったときの話をしよう 自分らしく生きていくために必要な22のこと」：2023年刊。自身の宇宙飛行体験や帰還後を振り返り、「自分らしく生きる」ことについて語る
- ・「宇宙飛行士野口聡一の全仕事術「究極のテレワーク」と困難を突破するコミュニケーション力」：2021年刊。宇宙飛行士としての経験から、働き方やコミュニケーション術、困難突破のヒントを提示。
- ・「宇宙に行くことは地球を知ること「宇宙新時代」を生きる」：2020年刊。宇宙からの視点を通じて地球・人類・社会について考察。



谷川 浩也

理事

国際政治経済

経済安全保障

産業政策・産業競争力

経歴

通商産業省に入省し、国際経済・通商政策の最前線でキャリアを重ねる。スタンフォード大学での客員研究員として国際政治経済を研究したのち、在シンガポール日本大使館一等書記官、通商政策局通商調査室長、通商産業研究所研究部長などを歴任。さらに、在欧州連合日本政府代表部参事官として欧州の政策動向を現地で分析し、日本の産業競争力や通商戦略の立案に関与するなど、国内外で幅広い政策業務を担ってきた。その後、経済産業研究所（RIETI）上席研究員として、産業政策、経済安全保障、国際政治経済、エネルギーなどの分野で多くの研究成果と政策提言を発信。内閣官房では副長官補付内閣参事官として国家レベルの政策形成に携わり、中東協力センター専務理事として国際資源戦略にも取り組むなど、地政学と産業戦略を横断する視点を深化させてきた。現在は、機械振興協会経済研究所の特任研究主幹およびRIETIコンサルティングフェローとして研究活動を継続し、地経学リスクや産業構造の変化に関する分析を発表。2024年よりIISEの理事として、国際政治経済・産業政策の知見を基に、新たな地政学/地経学的环境を構造的に分析しつつ、かかる環境下における外交・経済政策の方向性や我が国産業が直面する課題解決の為にビジネス/テクノロジー戦略・政策提言にも尽力している。

主な研究・論文・著書

- ・【論文】円高・デフレの是正と製造業の今後
一失われた20年の構造分析と機械産業の課題一
 - ・【著書】アジア通貨・経済危機の構造と課題
 - ・【コラム】MAGAとトランプ政権の関税政策について考えてみる
- その他、<https://jspmi.or.jp/system/researcher.php?buid=2&rrid=71>参照

IISEの所員紹介



芥川 愛子

ソートリーダーシップ推進部
プロフェッショナル

行政DX・スマートシティ

医療DX

生成AI・政策提言

経歴

早稲田大学政治経済学部経済学科卒業、政策研究大学院大学修士（公共政策）。大手通信事業者等を経てNECに入社後、IoT、量子コンピュータ等のマーケットインテリジェンスに従事し戦略立案に貢献。内閣府において、第6期科学技術・イノベーション基本計画の取りまとめに参画。IISEではスマートシティと行政デジタル化、医療DX、生成AIのThought Leadership活動を牽引。東京都スマート東京 データ連携・活用促進プロジェクト審査員委嘱(2024年度、2025年度)、熊谷市スマートシティシーンスケッチコンテス審査員委嘱（2024年度、2025年度）

主な研究・論文・著書

- ・『未来をつくるパーパス都市経営』（日経BP、2023年 著者：西岡満代）執筆協力
- ・2026年2月、医療DX書籍発刊予定（筆頭著者：大島一博）
- ・ソートリーダーシップの実践事例【Vol.9】「世界第1位の半導体企業NEC」に導いたソートとは？ | 国際社会経済研究所(IISE)

- ・[世界最大級のスマートシティイベント SCEWC2023レポート | 国際社会経済研究所\(IISE\)](#)

TL活動との接点

スマートシティと行政デジタル化、医療DX、生成AIのThought Leadership活動を牽引。



畔見 昌幸

ソートリーダーシップ推進部
プロフェッショナル

都市/スマートシティ

サプライチェーン

経歴

経済産業省、外務省等を経てIISEに参画。調査研究部（現：経済安全保障・デジタル社会研究部）にて「都市/スマートシティ」関連の調査研究を行う。2022年よりソートリーダーシップ推進部にて「環境」を、2025年からは「サプライチェーン」を担当する。

主な研究・論文・著書

- ・『未来をつくるパーパス都市経営』（西岡満代著、日経BP、2023年1月：執筆協力）
- ・スマートシティ構築にともない発生する法的規制等の可能性及び当該規制等への技術的対処
- ・スマートシティ構築とモビリティ関連サービス実装等より良い将来に向けた都市経営

※IISE調査研究部の研究事項より抜粋

TL活動との接点

SRM2.0 ソートリーダーシップ活動取りまとめ



井上 直樹

専任研究員

経済安全保障

国際関係

サイバーセキュリティ

経歴

東京理科大学理工学部を卒業し、SEとしてNECに入社。政府向けのシステム開発やサイバーセキュリティを担当。2024年、NECの経済安全保障統括室に配属となり、国内外の経済安保動向を踏まえたリスク・マネジメントを担当。IISEでは、経済安全保障担当の専任研究員を兼務。

外部での役職：無し

受賞歴：無し

IISEの所員紹介



岡部 稔哉

主任研究員

データ連携

モビリティ

経歴

日本電気株式会社に入社後、情報通信技術とスマートグリッド領域の研究開発、事業開発に従事。2007年に1年間米国 コロンビア大学インターネットリアルタイム研究所 客員研究員としてリアルタイムIP通信技術の研究開発に取り組む。マーケティング職に転向してからスマートシティやモビリティなどの戦略領域の市場調査、事業開発に従事。2011年から2年間、京都大学経営管理大学院スマート・インキュベーション・プログラム共同研究講座の研究員として技術経営(MOT)の研究に従事。2019年 国際実務マーケティング協会(IMSSA)認定マーケティング実務士資格取得。

主な研究・論文・著書

- ・「デジタルグリッドが実現するインバランス削減ソリューション」(NEC技報、Vol.68 No.2)
- ・「社会サービスシステム構想策定のためのVision-Oriented Collaboration(VOC)方法論の実践」(第16回国際P2M学会研究発表大会)等



小泉 雄介

経済安全保障・デジタル社会
研究部 主幹研究員

個人情報/プライバシー

AI倫理

デジタルID

経歴

東京大学理学部卒業、東京大学教養学部科学史・科学哲学分科卒業、東京大学大学院総合文化研究科中退。NEC総研に入社し、NEC出向を経て、2010年より国際社会経済研究所。長年、情報技術の導入が個人や社会に与える影響を研究。日本セキュリティ・マネジメント学会執行理事。電子情報技術産業協会(JEITA)個人データ保護専門委員会客員(2012年度～現在)。

主な研究・論文・著書

- ・『国民ID 導入に向けた取り組み』(共著、NTT出版、2009年)
- ・「AI倫理原則の規範倫理的根拠の探求」(JSSM学会誌2025年3月)
- ・「『国民IDの原則』の素描：選択の自由を手放さないために」(JSSM学会誌2023年12月)
- ・「感情認識の倫理的側面：データ化される個人の終着点」(JSSM学会誌2023年2月)
- ・「『快適で安全』な監視社会 一個人の自由が保障されなくていいのか」(岩波『世界』2019年6月号)



崎村 奏子

ソートリーダーシップ推進部
プロフェッショナル

サステナビリティ

社会的インパクト

経歴

新聞社を経て、IT企業サステナビリティ/ソーシャルインパクト部門にて多様なステークホルダーとの対話と共創による社会価値創造を推進。2023年よりIISEに参画し、環境や国際開発等の分野でソートリーダーシップ活動に取り組む。政策研究大学院大学 科学技術イノベーション政策プログラム修了。修士(公共政策)。米フィッシュファミリー財団 Japanese Women's Leadership Initiative(JWLI)フェロー。

主な研究・論文・著書

- ・Inclusive Innovation Policies for Economic Growth (執筆協力、Asian Productivity Organization、2023年)

TL活動との接点

適応ファイナンス ソートリーダーシップ活動担当

IISEの所員紹介



佐野 智

ソートリーダーシップ推進部
プロフェッショナル

宇宙

経歴

東京大学・大学院卒業後、宇宙航空研究開発機構（JAXA）に入社し20年以上勤務。主に国際宇宙ステーションを利用した新規宇宙事業の開発に尽力。経営企画部では、はやぶさ2、H3ロケットなどJAXA全予算の概算要求の政府折衝を担当。内閣府 科学技術イノベーション部局を経て、現職。国際宇宙大学ESC修了。博士（理学）。2025年から文部科学省 科学技術・学術政策研究所 客員研究員も務める。

主な研究・論文・著書

- ・「月に人類社会をつくるリファレンスモデル検討報告書」（月惑星に社会を作るための勉強会、共著、2025年3月）
- ・「JAXA宇宙日本食の現状と今後の展開」（JATAFFジャーナル2021、25-29）
- ・「国際宇宙ステーションを利用した革新的な応用成果の創出を目指して」（JASMA、共著、2008年4月）
- ・「Moon Village Association」「宇宙人文・社会科学研究会」所属

TL活動との接点

宇宙 ソートリーダーシップ活動取りまとめ



篠崎 裕介

ソートリーダーシップ推進部
プロフェッショナル

環境

ネイチャーポジティブ

新規事業開発

経歴

東京農工大学大学院 農学修士。2007年、NEC入社。通信事業者向けの営業・販促、2015年から新規事業開発組織にて数々の事業開発に携わる。2023年よりIISEにて環境分野のソートリーダーシップ活動に従事。国内IT業界初のNEC TNFDレポート第1版からの執筆コアメンバーの一人。

主な研究・論文・著書

- ・国際社会経済研究所「GX VISION 地球と共生して未来を守る」
- ・NEC TNFDレポート第1版、第2版、第3版
- ・コンポーザブル経営 加速度的な成長を実現させるDX戦略（著 桃谷 英樹 プレジデント社 2021年12月、執筆協力）
- ・超・実践！事業を創出・構築・加速させる グランドデザイン 大全（著 荒井 宏之 イースト・プレス 2024年10月、執筆協力）

TL活動との接点

環境 ソートリーダーシップ活動担当



塚原 督

ソートリーダーシップ推進部
プロフェッショナル

web3

経歴

通信・放送領域の事業会社に約20年勤務し、主に事業企画、新規事業の開発などに従事。その後、マイナンバーカード実証事業、スマートシティ、情報銀行等の事業開発を経て、2022年より現職。

TL活動との接点

web3 ソートリーダーシップ活動担当

IISEの所員紹介



名和 達彦

ソートリーダーシップ推進部
プロフェッショナル

FinTech / web3

スタートアップ投資

金融・資本市場

経歴

日経グループの金融データ会社QUICKに入社。日経新聞・日経QUICKニュースで経済記者・編集デスクとして約15年間、経済政策・金融・企業・国際商品市場を取材。ニューヨーク支局にも勤務し、米国金融市場や国際経済を現地で取材した。その後、FinTech領域の新規事業やスタートアップ投資を担当。デジタル金融やWeb3に関する調査・実務経験を経て、現在はIISEにて、気候変動や災害リスクに対応する「適応ファイナンス」の調査・提言を行っている。

主な研究・論文・著書

- ・仮想通貨ベンチマーク研究会・報告書「仮想通貨ベンチマーク開発の論点」（2018年、QUICK）
- ・米ジャパソサエティ「基礎から学ぶブロックチェーン」（2018）
- 登壇
- ・FINSUM 2019「スマートコントラクトの社会実装前夜」（モデレーター）

TL活動との接点

適応ファイナンス、AI協働有識者会議



藤平 慶太

経済安全保障・デジタル社会
研究部 主任研究員

地球環境問題

エネルギー

環境ビジネス

経歴

一橋大学社会学部卒業、ミシガン大学大学院自然資源環境学院修士課程修了、東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学研究系国際協力学専攻博士課程修了。博士(国際協力学)。全国紙記者、環境ベンチャーを経て、2023年IISEに参画。環境ベンチャーでは、環境ビジネスのコンサルティング業務、およびバイオマス発電・風力発電の事業開発に従事。

主な研究・論文・著書

- ・『企業と環境』（養賢堂、2022年）
- ・『カーボンフットプリントの最新現状・国際動向と事例集』（共著、サイエンス&テクノロジー、2010年）
- ・「FIP 制度下の風力発電事業における水素製造の追加的価値に関する研究」、環境情報科学 学術研究論文集 37（2023年）
- ・「ダイナミックプライシングの下でエネルギープロシューマーが持つ余剰電力の事業オプションの価値に関する研究」、環境情報科学 学術研究論文集 31（2017年）



布施 哲

特別研究主幹

経済安保

防衛

台湾有事リスク

経歴

上智大学法学部卒業、防衛大学校総合安全保障研究科修了（国際安全保障学修士、防衛大学校山崎学生奨励賞）。テレビ朝日政治部記者、ワシントン支局長、Zホールディング経済安全保障部長を経験。信州大学特任教授、海上自衛隊幹部学校客員研究員。これまでに米軍事シンクタンクCSBA客員研究員、ジョージタウン大学客員研究員（フルブライト奨学金）などを歴任。国際安全保障学会最優秀新人論文賞を受賞。

主な研究・論文・著書

- ・「AI支援型の自衛隊の意思決定」（2025年 日本防衛学会）
- ・「データセキュリティと経済安保」（2025年 CISTECジャーナル）
- ・「課題解決型の防衛イノベーションを急げ」（2025年 月刊Voice）
- ・「米国による対中制裁関税発動の背景：オバマ政権期における『経済諜報型』サイバー攻撃を中心に」（2021年 戦略研究学会）
- ・『先端技術と米中戦略競争』（2018年 秀和システム出版）
- ・『日本企業のための経済安全保障』（2024年 PHP新書）

IISEの所員紹介



本田 義明

研究員

国際政治

経済安全保障

産業政策

経歴

慶應義塾大学総合政策学部、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程修了。2022年、第37回外務省国際問題プレゼンテーションコンテスト外務大臣賞を受賞。慶應義塾大学大学院在学中に、公益財団法人国際文化会館・地経学研究soインターン、慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート（KGRI）非常勤職員（内閣府委託「安全・安心に関するシンクタンク機能育成事業」担当）に従事。東京科学大学非常勤講師。

主な研究・論文・著書

IISE note『経済安全保障』マガジンでの連載

- ・「日本を取り巻く経済安全保障環境の変化～「経済安全保障に関する産業・技術基盤強化アクションプラン」の議論を読み解く①～」



丸山 孝司

ソートリーダーシップ推進部
プロフェッショナル

デジタルファイナンス
(ウェルスマネジメント)

モビリティ
(自動車・インフラ協調モビリティ)

生成AI

経歴

銀行や政府系金融機関のシンクタンクにて、上場企業向けファイナンス、産業リサーチ（物流業界を中心）、観光業や製造業等に対する経営/財務コンサルティング、M&A業務等に従事。NEC入社後は、小売業や卸売業に対する、CX（顧客体験）向上、DX推進コンサルティング、金融機関に対する新規事業創出支援コンサルティング等に従事。

2023年IISEへ参画し、デジタルファイナンスやモビリティのThought Leadership活動を牽引。

2025年からは生成AIを活用したシンクタンクAI-native化プロジェクトを担当。

主な研究・論文・著書

- ・「日本のウェルスマネジメントの必要性と課題」
(2025年～IISE_noteにて、関連記事を執筆中[デジタルファイナンス | 国際社会経済研究所\(IISE\) | note](#))
- ・「カーシェアリングが生み出すコミュニティ形成とモビリティ・レジリエンス」（2019年 地域デザイン学会）

TL活動との接点

デジタルファイナンス、モビリティ、生成AIのThought Leadership活動担当。



遊間 和子

経済安全保障・デジタル社会
研究部主幹研究員

高齢化とICT

デジタルヘルス

情報アクセシビリティ

経歴

立教大学社会学部卒業、NEC総研を経て現職。情報社会を取り巻く社会課題に関する調査研究活動に従事。

国際大学グローバルコミュニケーションセンター客員研究員

（2006年～現在）、経済産業省「産業構造審議会 保安・消費生活用製品安全分科会 製品安全小委員会」委員（2016年～現在）、（国研）科学技術振興機構 社会技術研究開発センター「社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築 | プログラムアドバイザー（2023年～現在）なども務める。

主な研究・論文・著書

- ・2017～2025年度 厚生労働省老人保健健康増進等事業「AIを活用したケアプラン作成支援に係る調査研究」
- ・2022～2023年度 公益財団法人長寿科学振興財団 長寿科学研究者支援事業研究支援「ACP推進のための共通ICTプラットフォーム構築」
- ・「やさしく知りたい先端科学シリーズ5 デジタルヘルスケア」（監修 武藤正樹 / 著 遊間和子 2020年 創元社）
- ・「国民の介護白書 2022年度版」（共著 2022年 日本医療企画）

ソートリーダーシップ活動を象徴するビジュアル



THOUGHT LEADERSHIP INITIATIVE

ソートリーダーシップ活動

社会課題を解決へと導く新しい考え方を
構想して世の中に提示し、
ステークホルダーとの共感と共創を通じて、
顧客や市場など新たな価値を創造する
ソート（Thought）起点の社会実装活動。

自社の強み・テクノロジーを活かし、
ルールやエコシステムなどを形成しながら、
未来の構想から社会への実装までを実行します。



キービジュアルについて

IISEのミッションは「世界知で、未来を照らす」です。古代の人類は、夜空にバラバラに存在する星をつなげて星座を見つけ出し、その動きで種をまくタイミングを知ったり進む方向を決めたりしていました。IISEのミッションは、世界に無数に散らばる知を星座のようにつなぎ合わせ、道標として示すことです。

そしてIISEは「ソートリーダーシップ活動」を通して、星をつなぐ役割を果たします。

本キービジュアルを制作することで、ソートリーダーシップ活動の一連のプロセスを、「社会に新たな星座を描く」というストーリーとして視覚化しました。



IISE Mission



ソートリーダーシップ活動 メインキービジュアル

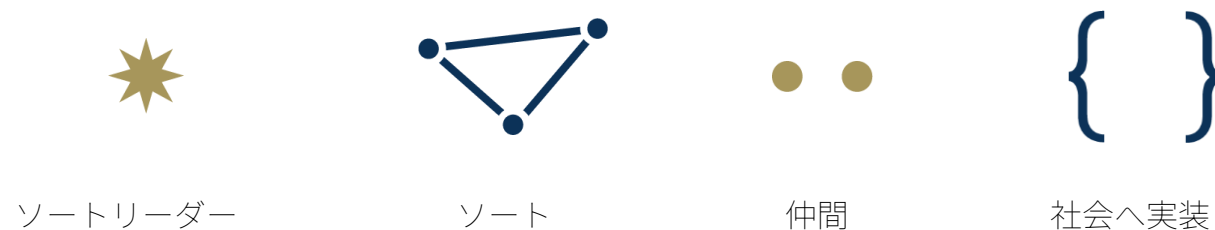
ビジュアルの示す意味

「星座」というモチーフは、点在する知や想いを結び、未来への指針を示すという活動の本質を象徴しています。さらに、それを抽象的に表現することで、構想の発信から社会実装までのプロセス全体を包括的に伝えています。

Processes



Elements



輝く星は、社会課題を解決へと導く【ソートリーダー】。
その解決に向けた、ビジョンと戦略を兼ね備えた
未来の社会像を【ソート】として構想し、
実現のために必要なパートナーやソリューションなど
【仲間】との共感と共創を通じて、
新たな顧客や市場を創造する【社会へ実装】の
プロセスを表現しています。



THOUGHT LEADERSHIP INITIATIVE

ソートリーダーシップ活動



わたしたちIISEは、一緒に価値をつくる仲間を募集しています。
「興味がある」「一緒に取り組みたい」「まず相談したい」など、どんな段階でも歓迎です。

【問い合わせ先】

IISE ソートリーダーシップ推進部
担当：榛葉、中島、内藤、福井
iise-pr@iise.jp.nec.com